

安全データシート
Formalex Clear

作成日:2018年4月1日

改訂日:2020年10月1日

1. 製品及び会社情報

製品名	Formalex Clear(ホルマレックス クリア)
製品コード	309-110-1、309-110-3~8
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
FAX番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	tokyo@falma.co.jp
緊急連絡先	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:ホルムアルデヒド中和剤

2. 危険有害性の要約(製品の情報がなため、成分のデータから区分を推定した)

GHS 分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 2A

上記以外の項目は、分類対象外、分類できない又は区分外

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	皮膚刺激 強い眼刺激
注意書き	
安全対策	保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 取扱い後は手などをよく洗うこと。
応急措置	皮膚に付着した場合、水で洗うこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚又は眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。
保管	日光を避け、容器を密閉して 25℃以下で保管すること。
廃棄	酸性水溶液として都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
SDS 通知対象化学物質は含まれていない。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。

皮膚に付着した場合

水で洗うこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。

眼に入った場合

水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。

飲み込んだ場合

速やかに口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

気分が悪いときは、医師の診察、手当を受けること。

予想される徴候症状

経口摂取：口腔粘膜及び喉の刺激が生じることがある。

皮膚又は眼に刺激が生じることがある。

吸入：気道刺激が生じることがある。

5. 火災時の措置

消火剤

水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂

特有の危険有害性

火災により刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具
及び緊急措置

作業には、保護具（手袋・眼鏡・マスク等）を着用する。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはならない。

封じ込め、浄化の方法及び機材

乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱注意事項	眼、皮膚への接触、吸入又は飲み込まないこと。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 換気の良い区域で使用する事。 取扱い後は手などをよく洗うこと。
衛生対策	
保管	
安全な保管条件	日光を避け、容器を密閉して 25℃以下で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
設備対策	取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置すること。 局所排気装置を使用すること。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じ、呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ、保護衣、保護長靴を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	
形状	透明液体
色	無色
臭い	わずかな臭気
pH	2.8
融点・凝固点	< -13℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	93℃
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	> 1
比重(相対密度)	1.14
溶解度	水に可溶
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	< 1
10. 安定性及び反応性	
反応性	通常の条件下で安定
化学的安定性	通常の条件下で安定
危険有害反応可能性	通常の条件下で生じない。
避けるべき条件	熱、日光
混触危険物質	塩基、強酸化剤、亜硝酸塩、過酸化物

危険有害な分解生成物 燃焼により窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素などを生成する。

11. 有害性情報(製品の情報が無いため、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性	データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトの皮膚に中等度の腐食性が認められたことより区分2。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	皮膚刺激があることより区分2A。
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性(急性)	データなし
水生環境有害性(長期間)	データなし

13. 廃棄上の注意

製品の廃棄	酸性水溶液として都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	非該当
国内規制	非該当
注意事項	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令 非該当

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。